

インフルエンザの 予防接種の重要性について ～予防接種を受けましょう～

本部保健師 福田 那美

気温が低くなり、様々な感染症の流行時期となりました。特に12月から3月まではインフルエンザウイルスが最も流行する時期です。皆さんは、すでにインフルエンザウイルスの予防接種を受けましたか？予防接種はその病気に罹^{かか}りにくくするだけでなく、発症後の重症化を防ぐ効果があります。

今回は重症化する仕組みとインフルエンザの予防接種の重要性についてご説明します。

保健室
中建国保の

重症化
とは？

重症化は、体の防御システムの異常によって起こります。

細菌や
ウイルスが
鼻や口から侵入

体内の防御システムが異物を追い出そうと働き、
様々な症状として現れる

ここでウイルスを追い出せないと…

体内の
防御システムが
さらに活発になり、
正常な細胞も攻撃

重要な
臓器にも
様々な
影響が出る

重症化

重症化のリスクが高い方

健康な成人に比べて以下の方は、インフルエンザウイルスに罹患した場合、重症化のリスクが高くなるため注意が必要です。

乳幼児

免疫を作り出す機能が
発達中であるため、
抵抗力が低い。



高齢者

年齢を重ねるにつれて
免疫力や抵抗力が
低くなる。



妊娠中

ホルモンバランス等
の影響で、抵抗力が
落ちやすい。



持病がある

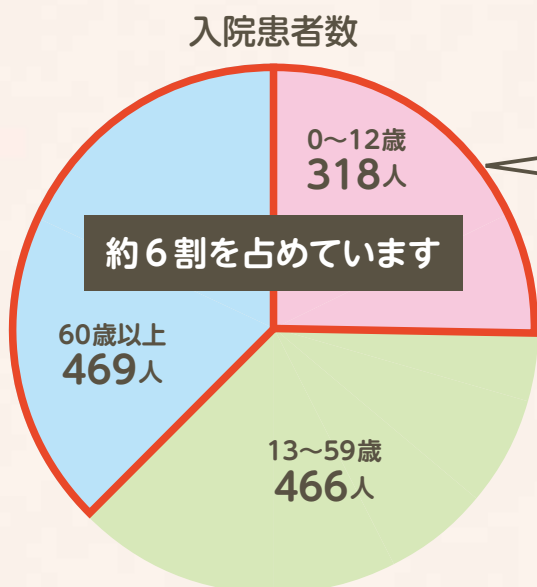
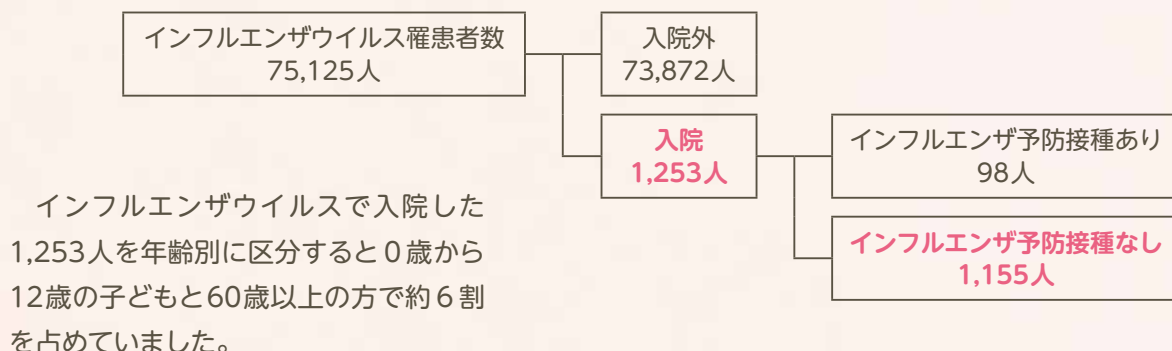
喘息や糖尿病等の
慢性疾患がある方は
抵抗力が弱い。



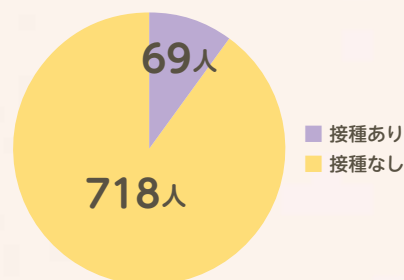
令和6年度の インフルエンザ ウイルスの 罹患状況

毎年流行しているインフルエンザウイルスですが、年度によって流行のピークは異なります。令和6年度は、12月下旬から1月中旬までの短期間に全国でピークを迎え、その後急速に収束しました。

中建国保では、インフルエンザウイルスの罹患者は75,125人、そのうち1,253人が入院していました。また、入院された方の約9割は、インフルエンザの予防接種を受けたことが確認できませんでした。



データ：令和6年度医療費分析ツールより抽出



さらに、入院した子どもと60歳以上の方のうち、インフルエンザの予防接種を受けたことが確認できない方は約9割を占めています。重症化を防ぐためにもインフルエンザの予防接種を受けましょう。

小さな子どもが入院した時は、親の付き添いが必要な場合があり、家族の負担も大きくなる場合があります。



まとめ

国内では、インフルエンザウイルスにより毎年3,000人を超える方が亡くなっています。特に重症化のリスクが高い家族と一緒に生活している場合は、家庭内にインフルエンザウイルスを持ち込まないことが大切です。また、家庭内で感染を拡大させないように、家族全員でインフルエンザの予防接種を受けることをお勧めします。

ワクチンは接種してから約2週間で効果が出てきます。今年の冬も元気に過ごすため、インフルエンザの予防接種は11月中に受けましょう。